

安心施策に係る具体的な方策(案)について 1

施策の方向性	
1 在宅の障害者が、日常介護を行う者の疾病その他の理由で介護を受けることができなくなるなど緊急に支援が必要となった場合において、在宅生活における不安解消と安全確保を図る。	
具体的な方策	説明
<特定非営利活動法人むつみ会> ①ショートステイの整備・拡充 ②日中一時支援施設での特別受け入れ ③グループホームでの特別受け入れ	①緊急な場合だけでなく、日常介護する方の休息のためにも必要と思われるので ②③緊急な場合に空きがないときに受け入れができるように法的整備をして受け入れができるようにする
<特定非営利活動法人おひさま生活塾> ・ショートステイのベッド数を増やす。 ・緊急時でもヘルパー派遣ができるようにする	・ショートステイの数が少なく希望するところへのショートステイが困難 ・医療行為がある人のために看護師の派遣が即できるような体制をとって欲しい
<宇部市聴覚障害者福祉協会> ・種別は問わず、市内の施設に緊急時にショートステイができるよう、居室やベッドを確保しておく。 ・ショートステイのできる施設は、月ごとの持ち回りでもよい	・聴覚障害者も高齢化が進み、夫婦間で介助をし合う姿も見受けられることから、上記「施策の方向性」に沿った、緊急時に安心してショートステイさせられる施設の確保を望みたい
<在宅障害児者と家族を支援する会> ・特殊な状況でのサポートに特化されているようだが、日常生活24時間という視点でのサポートについてはいかがか？施設の終了3時ころから自宅に帰って、働く家人が戻るまでの約2時間は一人で留守番というものも多いと思う。親は、この2時間がとても不安である。他の施設の日中一時を利用するというのも考えられるが、こうしたつぎはぎの対処ではなく、小学校の学童保育のような感じで、各事業所を終えて、希望する者がそれぞれ好きな時間を過ごしなが、迎えを待てるような場所が作れないだろうか？さらに、希望を言えば、施設から送迎バスでその場所まで送っていただきたい。日頃、運動する機会が少ないので、こうした場所で、運動できるプログラムを準備してもらえともっとうれしい。 ・重度の障害児も利用できるよう、施設に「重度加算」をしてはどうだろうか。予算が拡大することは心配だが・・・ ・親が病気や老いたりしてサービスを利用して生活しなければならなくなった時一緒に住める施設が欲しい。	・子どもと親と一緒に住めるような場所がほしい。(介護施設の中で子供も見れないか) ・場所にこだわりがあるため、同じ場所が望ましい。

施策の方向性

1 在宅の障害者が、日常介護を行う者の疾病その他の理由で介護を受けることができなくなるなど緊急に支援が必要となった場合において、在宅生活における不安解消と安全確保を図る。

具体的な方策	説明
<p><宇部すみれ会> ・在宅の障害者がいる場合、ケアマネージャーさんなどとの日頃からのコミュニケーションと、将来についての個に応じた話し合いを行っておくこと(ケアマネージャーさんの人数の確保) ・SOSを受けられる、TELの確保</p>	<p>・不安解消と安全確保は家族のみではできないことを前提として、動くことの必要性を常に感じている。担当する人数が多すぎれば、やはり難しい。 また、何かの時に、すぐ対応ができる連絡先の確保は、親子で安心、安全は少しずつでもつながると思う。明日は、被害者、加害者になるかもしれない。不安は大きい。</p>
<p><宇部市視覚障害者福祉協会></p>	<p>・予算3,000万円に事業を合わせるのか。施策として考えるのか。 ・障害の種類を問わず、年齢も制限がない方がいいのではないかな。</p>

安心施策に係る具体的な方策(案)について 2

施策の方向性	
2 通常の学級に在籍する、発達障害がある児童やその疑いのある児童に個に応じた学習支援や生活支援を行い、人と関わる力を身につけさせる。	
具体的な方策	説明
<山口県自閉症児者親の会宇部部分会> ・療育機関、専門家の介入	・教師は教育、療育は専門家へ任せ、学習においても生活においても教師と専門家が同じ目標を持つ
<特定非営利活動法人おひさま生活塾> ・児童個々に学習支援ボランティアをつける	・支援ボランティアも多種多様に対応できるような講習受講があると良い ・同じ方が1年間支援していただけると、生徒の心が打ち解ける ・ボランティアは資格がなくてもいいが、何も知らないのでは迷惑になるので、受講していただく
<在宅障害児者と家族を支援する会> ・すごくよい制度だと思う。教員免許を持っていて、短時間しか働けないものにとっても就労の希望が持てる	・1日4時間週3回ではなじまないのではないかと。常勤が望ましい。
<宇部すみれ会> ・指導にあたる、教員の障がいに対する知識の向上(定期的な勉強会) ・教員の人員不足の解消(教員の負担軽減)	・個に応じた学習支援を行うには、指導者の障害に対する知識不足は感じざるを得ない。クラスには、ほとんどといっていいほどの発達障害を持っている子が在籍していると考えるので、教員免許を取得する上で障がいに対する勉強のプログラムを取り入れることの大切さ。また、教員人数の増加を求める。
<宇部市視覚障害者福祉協会>	・アルバイト的な感覚ではどうなのか ・安心して支援を受けるといふことであれば、必要数を学校で把握した方がいい(予算からではなく必要数から)。 ・教員の質の問題もある。障害の経験を優先して教員を配置しているのか。 ・いくら机上で議論しても、現場では使い物にならないということもある。是非現場の教員の方の意見を聞きたい。

安心施策に係る具体的な方策(案)について 3

施策の方向性	
3 発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として、発達障害(自閉症スペクトラム,注意欠如・多動性障害,学習障害等)等のある方とそのご家族が安心して、そして豊かに生活できるよう支援する。	
具体的な方策	説明
<山口県自閉症児者親の会宇部分会> ・ワンストップの相談機関(かけこみ寺のようなもの)を市役所に置く(自閉症親の会)	・市の職員(障害福祉課)であっても、対応がまちまちだったり情報などもよく知っている人や調べてくれる人もいれば、そうでない方も、というわけで窓口が受け取り解決できる職員に渡す
<特定非営利活動法人おひさま生活塾> ・フリースペースのようなものがあれば良い。市内に数箇所欲しい	・登校拒否になっている子ども達が多くなっている気がする。親子で安心して心が打ち解け合える場があると(相談員もある)気持ちも安らぐのでは ・相談カフェや気軽に話せる場がほしい。 ・色々な問題を抱え込むだけでなく第三者に話すことで親子がお互いに安定する
<在宅障害児者と家族を支援する会> ・山口県ペアレント・メンターを活かしてほしい。現在5名程度いる。診断間もない、一番つらい時期に寄り添いたいと思っている。 ・うべつくし園の立て直しをして欲しい	・ペアレントメンターをぜひ活用してほしい。→活動する場(手段)がない ・発達障害に限定するのではなく、障害者全般にして欲しい ・色々な相談が同時にできる場所が欲しい ・支援にかかわる人は外部から雇われる方なのか。できれば、市の職員とか、専門的な知識を持った人がいい
<宇部すみれ会> ・人生を通じての相談機関や療育機関の設置の必要性	・自閉症スペクトラムなどの確立が少しずつ進んできてはいるが、幼少期に判明した人、または成人になってから判明した人など色々なケースが多く、特に成長するに伴って相談、療育機関が少ない。親の死後のケアも念頭に置いたものが必要と考えられる。
<宇部市視覚障害者福祉協会>	・ここに来れば何でも相談できる場所づくりを ・ここでも予算の問題がある

安心施策に係る具体的な方策(案)について 4

施策の方向性	
4 児童生徒及び教員が、障害のある方とのふれあいを通して、障害に対する理解を深め、偏見や差別のない共に生きる地域社会をつくる人材となるよう支援する。	
具体的な方策	説明
<山口県自閉症児者親の会宇部分会> ・民間の研修会や体験教室など	・特に教員は年間の必須の研修に組み込み、本人の好意ではなく、参加することによって単位が取得できる仕組みとする
<特定非営利活動法人むつみ会> ・出会い、ふれあいの場の設定	・精神障害は「病気」の一つということを理解してもらい、治療を通して、普通に社会生活を営めるということを知ってもらう
<特定非営利活動法人おひさま生活塾> ・学校の中で発達障害についての講義等を行い理解を深めていくことが望ましい。子ども達への理解が一番欲しい	・子ども達には発達障害の特性などが分かるDVD等映像で理解してもらう方が早いと思う。言葉だけではなかなか難しいのではないかと ・大人の理解は期待していない。小、中学生に正しい知識を届けたい。
<宇部市聴覚障害者福祉協会> ・小、中、高等学校など教育機関において、聴覚障害者ほか継続的に各種障害の理解につながる講座を開催する。時間や内容は問わない。また、特定の障害にこだわるのではなく、様々な障害があることを、教員を含めて子どもたちに知ってもらい、理解を促すことが大切。	・学校によっては、積極的、継続的に障害理解の講座を開催しているが、そうでない学校もあるように聞き、学校による温度差を感じる。子どもへの障害理解の教育は、障害者差別や偏見をしない、させない大人に育てるためにも重要。例えば、小学校で4年生時に必ず障害理解の勉強をする時間を設ければ、在校中に全児童が必ず1回は障害を学ぶことになる。また、将来のよき支援者を育てるために、高校のJRCなどで、クラブ活動として障害理解の講話や講座を取り入れることもよい。

施策の方向性

4 児童生徒及び教員が、障害のある方とのふれあいを通して、障害に対する理解を深め、偏見や差別のない共に生きる地域社会をつくる人材となるよう支援する。

具体的な方策	説明
<p><在宅障害児者と家族を支援する会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の体験に勝るものはないと思う。「総合支援学校って何」という子どもたちにぜひ行って欲しい。近隣の学校だけでなく、市内の子ども達、皆に一度足を運んでほしい。なお、事前・事後指導をしっかりとすることが必要と思う。 ・小学校の福祉教育に力を入れてほしいと思っていたので、いい事業内容だと思う。教員研修にも力を入れて欲しい。 ・『児童生徒及び教員に障害に対する…』は将来を見据えた対応として良好と思いますが、現在困っている人も多く、警察官や官庁の方にも理解していただけるような対策を考えて頂きたい。 ・成人の障害者に直接メリットのある事業として、何らかの事件に巻き込まれた時、警察や関係者とすみやかに連絡を取り、障害者一人を追いつめないための何らかの手段とか、健康維持のための保護者がいなくても利用できるスポーツ、運動施設などがあればよいのにと考えています。 ・もう一度考えてもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校から離れている場所の人は、支援学校をよく知らない。実際に見てほしい。 ・福祉教育の中で、事前・事後指導をしっかりとしてほしい。 ・警察の方や地域の方など障害者をもっと理解してほしい。 ・夏休みの宿題に、福祉の課題を出したらどうか。 ・重度の自閉症のことを分かって欲しい ・普通の小学校に通える体制、環境を作って欲しい
<p><宇部すみれ会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者(先生)の積極的な障害に対する学習と質の向上と人材確保 ・計画的な障害に対しての学習の機会と機関の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供に接する大人の態度は大きな影響を与える。ちょっとした不用意な態度はいじめに直結していると思って行動しなければならない。 ・障害に対しての理解を深めることにより、他の子の発達にも良い影響を及ぼし、また学習運営もうまくいくと考えられる。 ・共に成長することの大切さから、将来地域社会での生活に望みが生まれると考える
<p><宇部市視覚障害者福祉協会></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な障害を知って欲しい。子供だけでなく大人も ・障害者への偏見に対する理解、教育の時間を ・ただの交流ではなく、理解して知ってもらう

安心施策に係る具体的な方策(案)について 5

施策の方向性	
5 その他	
具体的な方策	説明
<p><特定非営利活動法人むつみ会> ・4(の施策)の子どもだけでなく、地域にも同じような支援策が必要</p>	<p>・国の施策として、ベッド数を減じて地域へという方向に向かっているが、地域での受け入れに不安があるので同時に大人に向けても支援策をすすめて欲しい。</p>
<p><宇部すみれ会> ・安心施策には「人材育成の機関」、「医療、相談、療育の機関」など設置と向上、家庭との連携が不可欠です</p>	<p>・金銭的には想像を超えるほどに莫大なものになると思います。しかしながら、発達障害を持って生まれてきた子が、将来地域社会の中で自分で生活ができ、糧を得て、納税できる者となれば、高齢化社会の中で大きな人材になると信じています。</p> <p>・障がいは一生は治らないものであります。しかしながら、個の持った能力を引き出すことによって地域に貢献できるようになるとも信じています。是非障害者の安心施策の向上をお願いしたいと思っております。</p>